策として始められたとのことでした。町の中心部は城下町の名残りが見られ，現在は繊維産業が主な産業です。そして周辺の農村部で農家の副業として前に述べた金魚養殖が行なわれているのです。

以上，私達の奈良盆地巡検は終りましたが，京阪神の近郊地域という性格を持った奈良盆地は外見的には大きな工場もなく，あくまでも古い文化の名残りを留め，静かに，のんびりとしているようですが，その内部では刻一刻と新しい変化が生じているのではないかと思いました。

（3学年　小　倉）

渥美半島から糸魚川へ　（正　井　教　官）

昭和41年3月8～11日

正井先生と1年生14名で，日本列島を横断する目的で，3月8日に東京を出発した。

第1日の3月8日は渥美半島の土田で花卉栽培を見学した。もともと漁村だったこの村は花卉栽培に転じ，現在では自動車運送の発達により，夜出荷して翌朝東京の市場へ出している。電照菊を中心に，ストック，キンギョ草，夏にはメロン，トマトの栽培を行なっている。その他太平洋をながめ，いわゆる表日本式気候地域の植生と家屋の特徴の観察も行なった。

第2日目の8日は，豊橋一松本間における主に車窓からの観察。天龍峡と辰野で途中下車し，防風林，積雪状態，段丘，桑園，（扇状地），冬作物の種類とその状態等を主に観察した。

10日と11日は前日の観察事項の他，中部日本の典型的農山村と深雪地帯において，雁木，中門，横木，防雪林，防雪さく，雪がこい（トンネル入口），流雪溝等を観察した。この両日には日本海を眺めて，裏日本式気候地域の全体的把握を行なったのである。

糸魚川への途中「やなば」で途中下車，主に積雪状態を調べた。3月の中頃だったので，雪は，20cm位の深さであり，融雪水が道路にあふれていた。さらに信濃四ッ谷（北アルプス登山口）でも下車し，次の信濃森上駅まで歩いた。アルプスの山々を臨み，都会の雑踏を忘れ，さわやかさを味わった。太平洋を臨んだ時は雨がしとしとと降って肌寒く，日本海に出た時には，晴天で風は強かったが，かなり暖かく，予想とは全く逆の状態であった。巡検の度毎に地理学への興味が湧いてくるようであり，皆次第に地理学に熱中していくことであろう。ただ，そのために私達が，狭い殻の中に閉じ込もる人間にならないように絶えず注意したい。（2学年　森　山）